SUSTAINABILITY REPORT 2019

サステナビリティ レポート 2019

～持続可能な社会の実現に向けて～

RTG
RESORTTRUST GROUP

リゾートトラストグループがCSR活動に込める思い

Make a Smile

私たちは、

CSR活動に Make a Smile という思いを込めています。

リゾートホテルやシティホテル、ゴルフ場、医療施設、
シニアレジデンスなどの事業を展開する私たちの使命は、
お客様の先を行く感性で
こころに響く最高のおもてなしを行うこと。
利用いただいたすべてのお客様に
最高の笑顔をお届けしたいと考えています。
CSR活動も単なる取り組みで終わらせるのではなく、
継続的に積み重ねていくことで
多くの方々に笑顔を届けることだと考えています。

事業を通じて、お客様に笑顔を。
お付き合いいただいている、企業様、団体様に笑顔を。
深いつながりを持つ地域社会の方々に笑顔を。
リゾートトラストグループで働くすべての人に笑顔を。

Make a Smile

私たちは、
今後もCSR活動に全力で取り組んでまいります。

SUSTAINABILITY REPORT 2019

INDEX

03 トップメッセージ

04 編集方針
持続可能な開発目標（SDGs）

05 自然との共生
- 環境設計 ラグーナベイコート倶楽部
- 環境設計 グランディ浜名湖ゴルフクラブ
- リゾートトラストメガソーラー那須白河
- おりがみアクション
- 自然体験
- 富士山の植樹活動　他

21 地域・社会への貢献
- 地産地消にかける想い
- 夢と感動を与える食育
- メディカル事業での社会貢献
- うちやま料理ものがたり
- 復興支援活動
- 私たちの地域貢献
- ザ・カハラ・ホテル＆リゾート ハワイ

39 働きやすい職場づくり
- ダイバーシティ推進
- リゾートトラストグループ健康経営

49 ISO14001認証取得施設

持続可能な社会の実現と
企業成長は二人三脚

上場企業として、業界のリーディングカンパニーとして、
私たちには果たすべき大きな社会的責任があると考えています。

そのために現在、特に力を入れているCSR領域は４つあります。
まず１つは、リゾート産業に携わる私たちの使命である「自然環境の維持・保存」。
２つめは、地域社会との関わりを大切にした「社会貢献」。
そして３つめは、経営理念である『エクセレント・ホスピタリティ・グループ』の実現に向け、
性別や年齢・障がいの有無にかかわらず、
多様な人材が活躍できる企業を目指した「ダイバーシティ」の実現。
そして4つめは、従業員の健康増進やライフワークバランス向上のために
様々な仕組みや風土作りを行う「健康経営」の取り組みです。

業界を牽引する企業としてふさわしいCSR活動を行う。
それが私たちのさらなる企業成長を支えるものと信じ、
従業員全員で力を合わせ推進していく所存です。

代表取締役会長　伊藤　勝康

編集方針

私たちは持続可能な社会の実現に向け、事業活動を通じてさまざまな取り組みを行っています。本レポートでは、自然環境・地域環境・職場環境それぞれの当社の活動を国連サミットで採択されたSDGｓ（持続可能な開発目標）に紐付けながらご紹介します。

リゾートトラストの事業内容

会員権事業

東京、名古屋、大阪に近く利便性の高い、会員制リゾートホテルの開発や会員制ゴルフ場の運営と、それらの会員権販売などを行っております。

ホテルレストラン等事業

本物志向の設備、料理、サービスを核とするホテル・レストラン運営などを行っております。

ゴルフ事業

総合リゾート事業の一環として、チャンピオンシップコースをはじめとするハイクオリティな会員制ゴルフ事業を展開しています。

メディカル事業

高品質な健康関連サービスを提供する総合メディカル事業及び有料老人ホーム等の運営を行っております。

持続可能な開発目標（SDGs）

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標（下図）が掲げられ、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。発展途上国のみでなく先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、世界各国の企業も積極的に取り組んでいます。

リゾートトラストグループの自然環境への取り組み

自然との共生

Nature

この美しい風景をいつまでも

リゾート事業を行う私たちにとって

環境はかけがえのない商品そのものです。

美しい自然の風景をいつまでも。

温暖化や環境汚染の防止、

水資源を含む環境資源の持続的利用など、

自然環境と共に生きていくことを使命に、

企業活動を行っています。

自然と地域と共存できる開発を

［ 環境設計 ］ ラグーナベイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート　2019年3月開業

「港に現れた、近未来の王宮」
それは、新たなホテルづくりへのチャレンジでした

ラグーナベイコート倶楽部は、愛知県に本社を置く当社が県内に初めて建設した完全会員制リゾートホテルです。前面に三河湾を望み、背面は山々に囲まれ、マリーナにも面しているこの立地を最大限に生かすべく、用地購入から建物竣工まで10年間もの歳月をかけました。今までクラシックなホテルを多く建ててきた私たちが、「Futuristic Luxury」というデザインコンセプトをもとに近未来を表現することは新たな挑戦でした。これから多くの方にご覧いただけることを楽しみにしています。

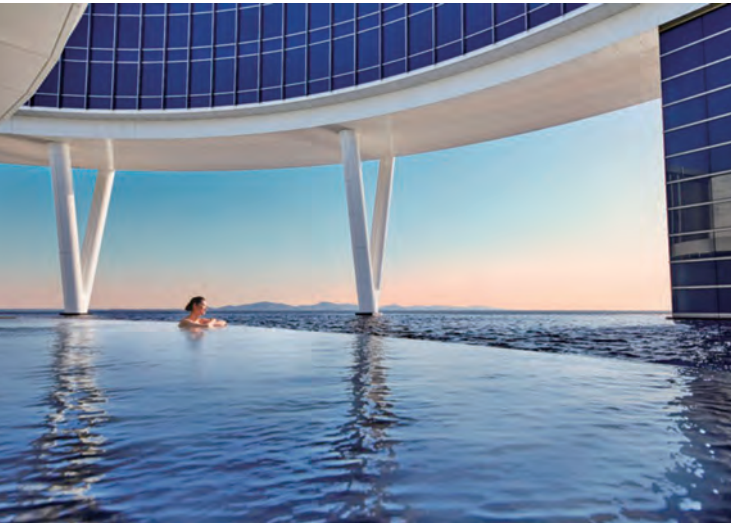
開発部門 開発部
主事
小野 政一

リゾートトラストが考える環境設計

私たちが新規ホテルを造るうえで、環境に対して大切にしていることが3つあります。1つ目は、敷地内の森林の状態を把握すること。生息する高木を1本ずつ調査し種類や大きさ、生育状態を確かめます。その後、状態の良いものは移植を、伐採が必要な場合は可能な限り伐採した数以上の植林を行います。

2つ目は、省エネ機器を最大限に取り入れること。例えば照明は全館LEDを、電子機器は各分野で最も省エネ性能の高い「トップランナー機器」を採用しています。

3つ目は、地域との対話です。法令上の環境基準を守るだけでなく、自治体の担当者や地域の人々と話し合い、幾度となく計画を見直し、納得していただいたうえで開発を進めていくことを大切にしています。



天然温泉のアウトドアバスは、雄大な三河湾を臨む造りに。

緑豊かな並木の先にある車寄せ。アプローチをはじめ、1700本を超える植林により、一から森を造り上げた。

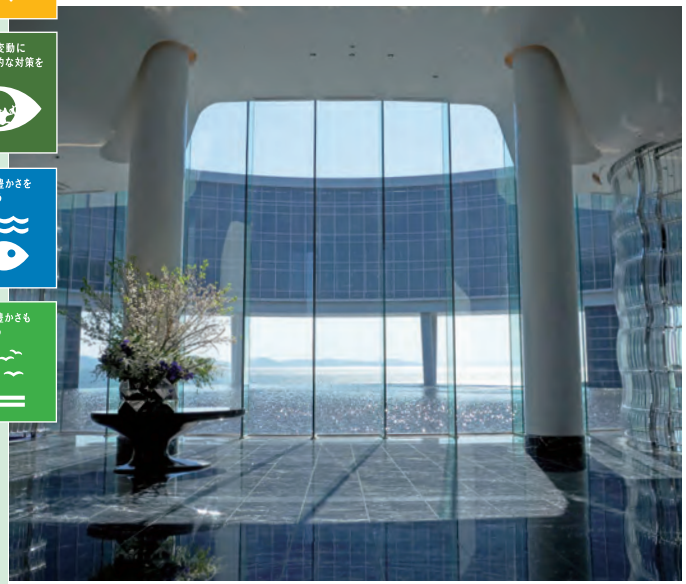
環境保全と同時に開発コンセプトを実現したラグーナベイコート倶楽部

ラグーナベイコート倶楽部は、三河湾に面しているのが最大の魅力です。全ての客室をオーシャンビューにし、ホテルへ至るアプローチはあえて森をイメージしました。「森に囲まれていて建物の全貌が見えない」という空間を目指しています。森を抜けてエントランスへ入ると目の前に三河湾が広がるという驚きや感動を与えたかったので、大きな水盤を建物中央に配し海と一体的な空間を造りました。

この土地はもともと埋め立て地でした。そのため、一本も木を伐採することはありませんでしたが、広大な森にするべく1,700本もの高木を植え、森を一から造り上げました。さらに、土壌の質が植物の生育に適さなかったことから、改善を行う必要がありました。敷地内の土を全て入れ替えるとなると、大量の土が廃棄物となってしまいます。それを防ぐために既存の土はそのままにして、その上に植物に適した土を盛りました。この盛り土で敷地全体を高くし、高潮対策にも対応しました。

植林用の樹木には、潮風に強いタブノキ、マテバシイ、カシ類などを中心に選定しました。さらに落葉樹や花が咲く木などの変化に富んだ樹木を植林することによって、自然の森を再現しました。その結果、市が指定する緑地面積率5%を大きく超え、約30%を緑地化しました。また、ホテル前の市道の街路樹も多くが傷んでいたため、市と相談のうえ、植え替えを実施しました。

また、お客様にはオープン時から森が完成した状態でお出迎えしたいという思いがあったので、樹木の生育スピードを考慮しました。オープン時にしっかりと緑が生い茂る森にするべく、植栽を前倒し、夏前には終えました。おかげでオープン時には敷地のあちこちで鳥のさえずりが聞こえ、多くの生き物が暮らす本物に近い森を造り上げることができたのではないかと考えています。



美しい三河湾を守るための取り組み

スナメリは豊かな海の象徴とされ、自然環境や生態系を推し量るバロメーターとされています。そんなスナメリが生息し、地元の方々にも愛されている美しい三河湾を決して汚すことのないよう配慮しています。今回のラグーナベイコート倶楽部において、三河湾との一体化を演出する大きな水盤には大量の水が必要ですが、水資源の保護のため、その水は循環ろ過によって常に浄化したものを再利用しています。水盤から溢れた水は調整池に流れるようになっており、そこで塩素などを除去しています。

水盤の水は、スパの水風呂を冷やすための冷却水としても活用しています。年間で約14,500kWh、一般家庭の3.3年分に当たる電力削減に役立っています。自然の池や湖と同じように、雨が降ると水が溜まり、晴天の日には蒸発しますので、周囲の森とともに敷地内の気温上昇を抑制する効果にも期待しています。

地域のランドマークを目指した美しく個性的な建物デザイン

ホテル事業は、地域の観光資源として重要な役割を担っています。特に今回はラグーナ蒲郡地区計画の一環として、ランドマークになるようなインパクトのある外観が必要だと考えました。30m以下という高さ制限を守りながら、より美しく、「波」をイメージした個性的な外観を追求したことで、この独特の建築デザインが生まれました。さらに、曲線を生かし、より柔らかな印象にするために、建物の両端を緩やかな階段状にしました。三河湾にせり出している建物中央部分は、お客様により解放的なイメージを持ってもらえるよう、宙に浮かせました。距離にして約120m、全30室の客室があるこの部分を支えるには、本来であれば太い柱が必要ですが、お客様がエントランスロビーで目にする光景を大切にするためにドームや橋などに使われるトラス構造を採用し、柱を細くすることでより美しい景観を実現しました。

道路、対岸、海…、どこから見ても美しいラグーナベイコート倶楽部の外観は、この地を訪れたお客様にきっと喜んでいただけると考えています。

完成後の環境にも配慮した
リゾートトラストならではのゴルフ場開発

［ 環境設計 ］ グランディ浜名湖ゴルフクラブ

ゴルフ事業部 工事部
部長
三ツ口 博人

完成して終わりではない、未来を考えた開発

ゴルフ場開発において当社は、設計・施工管理・メンテナンスと開発から開発後のことまで全てを統括しています。通常のゴルフ場開発では、樹木を極力残すことに焦点が当てられますが、私たちの場合はそれだけではなく、ゴルフ場完成後の環境にも配慮することを大切にしています。「ゴルフ場を開発する」という目線だけで考えるのではなく、他業種の技術にもアンテナを張り、ゴルフ場運営に応用できないか挑戦し続けています。

ゴルフ場開発で環境を守る

ゴルフ場開発というと、森や山林を切り開くというようなマイナスのイメージがあるかもしれませんが、実はそればかりではありません。人の手が入っていなかった森を整備して継続的に管理していくことは、自然環境を守ることにもつながります。ゴルフ場を造り、排水をコントロールすることで、大雨の際に下流域の洪水を防ぐ効果もあります。実際に、当社がゴルフ場を建設してから水害がなくなったという地域もあります。

難しいのは農薬の問題です。ゴルフ場の芝を1年中美しい緑に保つためには、農薬が不可欠です。ゴルフ場で使う農薬は、農業で使われるものよりさらに基準が厳しく、毒性の低いものに限られていますが、それでも全く無害とは言い切れません。使用した農薬が場外に流出することのないよう十分な対策を施し、自治体や近隣の関係者の皆様に安心していただける開発を実施しています。

独自開発のシステムを導入

グランディ浜名湖ゴルフクラブは、2004年に浜名湖内の養鰻場の埋め立て地を利用して建設しました。実はこの場所には、もともと他の企業より無農薬で運営するゴルフ場が建設される予定でしたが、計画は中止となり、それを当社が引き継ぐ形となりました。当初は農薬による浜名湖への影響を考慮し、無農薬での運営も検討しましたが、無農薬ではリゾートトラストとして提供するゴルフ場のクオリティが保てないことがわかったため、ゴルフ場のクオリティを保ちつつ、浜名湖にも影響が出ない「クローズドシステム」と「堆肥化システム」を開発・導入しました。

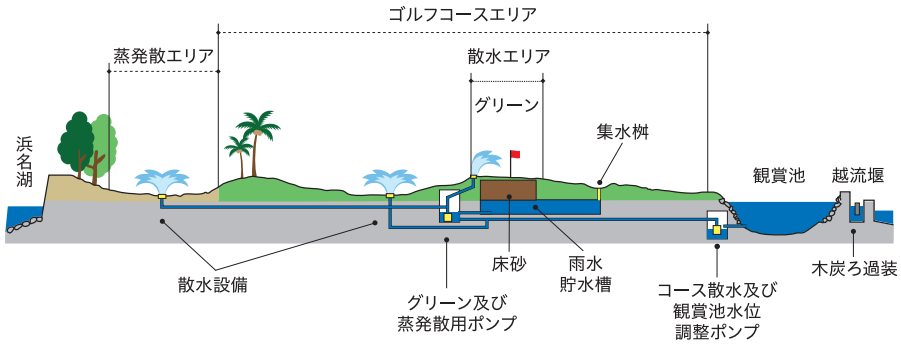
クローズドシステムとは、ゴルフ場内で発生した農薬を含む水を循環させ、外部に漏らさないようにするシステムのことです。ゴルフコースの中でも特に多くの農薬を使うのがグリーンです。全てのグリーンの下に容量約100tの貯水槽を設置し、グリーンに降った雨や撒かれた水が全て貯水槽に集まるようにしました。貯水槽の水の一部はグリーンへの散水に再利用し、残りは流出の心配がない蒸発散エリアへと送り、自然に蒸発させます。大雨などにより貯水槽の水が一定水位を超えた場合は観賞池へと排出されますが、さらに観賞池の水位が越流堰（えつりゅうぜき）を超えた場合のみ、そこで希釈された水が木炭ろ過槽を通して浜名湖に排出されています。

クローズドシステムの効果を確認するため、オープン以来、観賞池の水質を定期的に測定していますが、わずかな農薬も検出されたことがありません。もちろん環境省の基準値は完全にクリアしており、行政や漁業協同組合の皆様にもご安心いただいています。

実際に、静岡県の全ゴルフ場が使用する農薬の年間平均使用料が約1,200kgに対し、グランディ浜名湖ゴルフクラブでは年間約200kg程度に抑えられています。

グランディ浜名湖ゴルフクラブのグリーンの下には、容量約100tの貯水槽が設置されている。

クローズドシステム概念図



グリーンの水を集め、適切に再利用・蒸発散等の処理を行うことにより、農薬の外部への流出を防いでいる。

廃棄物を出さないリサイクルシステム

コースを手入れするための芝刈りは、刈った芝を回収しないゴルフ場も多いてすが、グランディ浜名湖ゴルフクラブのような海や湖に面したゴルフ場で芝を回収しない場合、飛ばされた芝などが水質汚染の原因にもなります。これを防ぐために当社が開発したのが、堆肥化システムです。

芝を刈ると同時に収草できる芝刈機を使用し、刈った芝を放置することなく、全てコンテナに集めます。芝の入ったコンテナをトラックで場内の堆肥庫に運び、約6カ月間発酵・熟成させて堆肥化。出来上がった堆肥は場内で再利用します。このシステムには、廃棄物を出さないメリットだけでなく、雑草や害虫の卵を刈り集める事で、それらの個体が増えるのを未然に防ぐ効果があります。それは、農薬を減らすことにも繋がるのです。

この堆肥化システムとクローズドシステムは、グランディ浜名湖ゴルフクラブを運営するために必要不可欠なシステムであり、環境資源を守るための重要な役割を担っています。

より良いゴルフ場にすべく常に考え挑戦する

グランディ浜名湖ゴルフクラブでクローズドシステムと堆肥化システムを開発したように、私たちはより良いゴルフ場にするために何かできることがないかを、常に考えています。

例えば、ゴルフ場の樹木は、コース戦略を損なわないように、常に間伐や剪定を行っています。そこで出た木くずを廃棄物として捨てることなく、チップ化して樹木の生育管理に利用する仕組み作りを進めています。また、バンカーの砂質管理についても、新しい砂と入れ替えるのではなく、元の砂を洗浄して再利用することで、砂の廃棄を無くしていこうと考えています。

このような仕組み開発には、他業種の技術や海外の専門家とのコネクションからヒントを得ています。私たちは、常に現状を見直し改善していくために、あらゆる方法で情報を収集しながら、挑戦し続けています。

芝刈機で刈った芝や雑草などをコンテナに集める。

トラックで堆肥庫へ運搬。使用するトラックには、産業廃棄物運搬用のトラックを採用しています。

約6カ月かけて堆肥化。出来上がった堆肥は芝の土壌健全化にもつながっています。

リゾートトラストレディスをグランディ浜名湖ゴルフクラブで開催

2019年5月31日（金）から6月2日（日）にかけて、女子プロゴルフトーナメント「リゾートトラストレディス」をグランディ浜名湖ゴルフクラブで開催しました。
試合は、通算14アンダーで並び、ペ・ソンウ プロとのプレーオフへ持ち込まれた末、原英莉花プロがLPGAツアー初勝利を飾りました。

グリーンキャンペーン

大会では毎年「美しい自然との共生」をテーマに“グリーンキャンペーン”を実施。入場券販売等収益金の一部を、地域社会の緑化事業の推進に役立てていただくために寄付しております。

〈目録贈呈の様子〉
右：公益財団法人
静岡県グリーンバンク
理事長
中山 正邦 氏
左：代表取締役社長
伏見 有貴

再生可能な クリーンエネルギー発電

リゾートトラスト メガソーラー那須白河

太陽光発電の活用

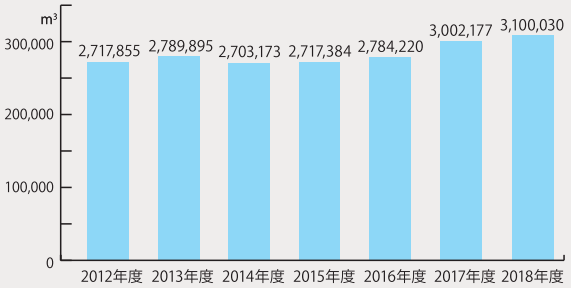
グランディ那須白河ゴルフクラブの隣接地にある「リゾートトラスト メガソーラー那須白河」では、2014年3月から発電を開始しています。発電出力は約2,000kWと一般的な住宅用ソーラー発電設備の500倍に相当。敷地面積255,000㎡の中に太陽光パネル8,320枚が設置されています。大きな特徴のひとつは、電気自動車用の非常用充電設備があることです。送電が止まるような災害時に救助車両となり得る電気自動車へ発電した電力を供給できるようにと考えられています。

▲メガソーラーの現在の発電量を示すディスプレイ。杉の木に換算したCO2の削減量も表示されています。

▶エクシブ那須白河のロビーに設置されているモニターでも、メガソーラーの発電量が確認できます。

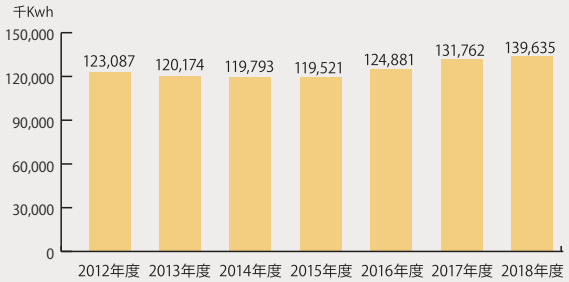
リゾートトラストの環境数値

水の使用量 ※1

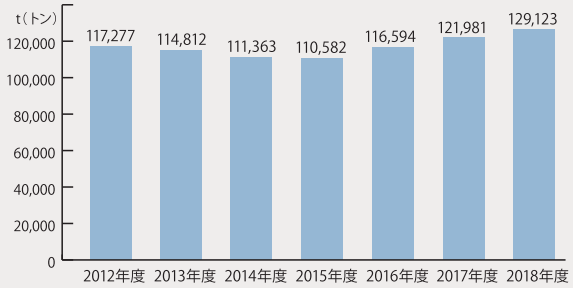


※1 本社等の事務所、ローズルーム等のレストランの使用量を除く

電力使用量

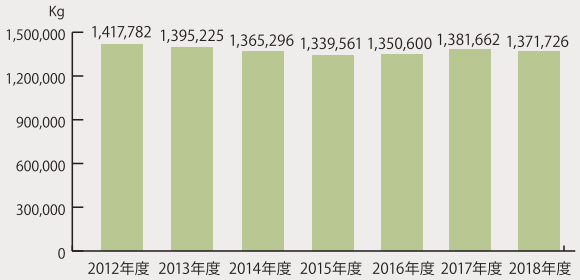


二酸化炭素排出量 ※2

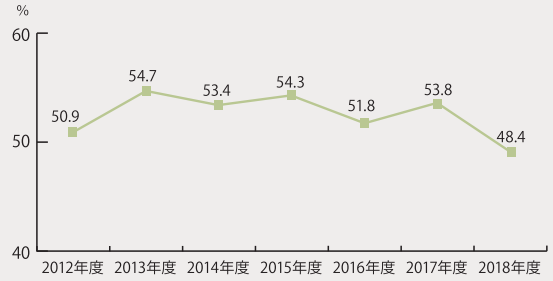


※2 下記（1）～（3）の合計量
（1）燃料の使用に伴って発生する二酸化炭素の排出量
（2）他者から供給された電気の使用に伴って発生する二酸化炭素の排出量
（3）他者から供給された熱の使用に伴って発生する二酸化炭素の排出量

生ゴミ排出量



生ゴミのリサイクルの割合



開業ホテル

［2013年度］
ホテルトラスティ金沢 香林坊（2013年6月）

［2015年度］
エクシブ鳥羽別邸（2016年3月）

［2016年度］
エクシブ湯河原離宮（2017年3月）

［2017年度］
芦屋ベイコート倶楽部（2018年2月）

［2018年度］
エクシブ六甲 サンクチュアリ・ヴィラ（2018年4月）
ラグーナベイコート倶楽部（2019年3月）

生物多様性の大切さを広める「おりがみアクション」

おりがみアクションのはじまり

2010年、愛知県名古屋市で「生物多様性条約第10回締約国会議（以下COP10）」が開催されました。名古屋市に本社を置く当社は、この会議に参加する国際環境機関「IUCN（国際自然保護連合）日本委員会」と共同で、会議のロゴマークでもある「おりがみロゴ（多様な動植物を日本の伝統文化であるおりがみで表現するもの）」をお客様と折り、「10年後の地球」に向けたメッセージと共に会議会場に届ける活動（おりがみアクション）を実施しました。

ホテルでの「おりがみアクション」

2010年以降も、2年ごとに開催される「生物多様性条約締約国会議」の年に、「おりがみアクション」を開催し、継続してお客様に生物多様性の大切さを伝える取り組みを行っています。

COP10の成果を確認する2020年に向けた「おりがみコアラ2020チャレンジ」へ参加

COP10の際、会場へ届けられたたくさんのおりがみの一部は、IUCN日本委員会により、タイムカプセルに入れて、名古屋市にある東山動植物園の花畑に埋められました。COP10で定められた「愛知目標」の達成を評価する2020年のタイムカプセル開封予定まで、毎年イベントを行っており、私たちも毎年参加しています。

2018年には「おりがみコアラ2020チャレンジ」が開催され、2020年に向けて、絶滅危惧種に指定されているコアラの希少性を知っていただくために、おりがみで折った2020体のコアラを集めるチャレンジに参加しました。

今後も「おりがみアクション」を通じて、生物多様性の大切さを広く知っていただけるよう活動してまいります。

生物多様性ってどういうこと？ ● IUCN日本委員会の道家氏にコメントをいただきました

生物多様性とは「生物の個性とつながり」

生物多様性とは、自然を“生物がもつ個性やつながりの多様さ”の点に注目して表現した言葉です。

例えば、ハチが花から蜜をとるのと同時に、花粉を運ぶことで、花は実をつけることができるというつながりがあります。さらに、このようなつながりには、強弱があります。ハチの中でもマルハナバチという種類だけが、トマトやブルーベリーの花粉を運び、実をつけさせることができるという「強いつながり」があるのです。このマルハナバチの仲間のなんと4分の1が絶滅の危機にあるという地域もあり、トマト生産などの農産業に悪影響が出る恐れが指摘されています。

動物でいうとトラ・ライオン・イヌワシ・コアラ（カッコいい、強いというイメージから）といったプロ野球チームのマスコットになるような、私たちが身近に感じている動物や、サンタのそりを引いてくれるトナカイなども実は絶滅の危機にあり、守るための取り組みが懸命に行われています。

私たち一人ひとりの暮らしも、世界中の、色々な生物とつながっています。

IUCN日本委員会副会長
道家 哲平氏

リゾートトラストは、日本フットパス協会に加盟しています。

その土地ならではの自然体験を通して自然の魅力を伝える

フットパス　歩いて楽しむふれあいの旅

当社は日本フットパス協会に加盟し、老若男女どなたでもフリースタイルで楽しんでいただけるコースを紹介しています。季節ごとに色とりどりの花が咲く道や歴史を味わうことのできる道など、ホテル周辺の飾らない風景を楽しみながら、マップを片手に自分のペースで気ままに散策いただけます。

フットパス実施ホテル

- グランドエクシブ那須白河
- エクシブ山中湖
- グランドエクシブ軽井沢
- エクシブ蓼科
- エクシブ箱根離宮
- リゾーピア箱根
- グランドエクシブ初島クラブ
- リゾーピア熱海
- エクシブ伊豆
- グランドエクシブ浜名湖
- グランドエクシブ鳥羽
- エクシブ琵琶湖
- エクシブ京都 八瀬離宮
- エクシブ白浜&アネックス
- エクシブ有馬離宮
- エクシブ淡路島
- グランドエクシブ鳴門
- サンメンバーズ京都嵯峨

ウミガメの放流体験

グランドエクシブ浜名湖

絶滅危惧種で浜松市の指定天然記念物であるアカウミガメの赤ちゃんを近隣の遠州灘海岸で放流する体験です。放流前には、アカウミガメの生態や環境問題についても学ぶことができます。

昆虫採集

カブトムシ&クワガタ採集

グランドエクシブ那須白河

自然豊かなホテル内の樹木や花の説明を聞きながら、カブトムシを探しに行くイベントです。カブトムシの習性や自然のことをたくさん勉強することができます。

昆虫探し体験

グランドエクシブ鳥羽

昆虫の生態を熟知した専門ガイドと一緒に自然豊かなホテル内を探検し、カブトムシなどの昆虫を探しに行くイベントです。専門ガイドから、さまざまな昆虫の生態について学ぶことができます。

星空観測

富士山五合目スターウォッチング

エクシブ山中湖

ホテルから富士山五合目まで行き、満天の星を観賞するイベントです。日本が誇る富士山の魅力を体験できる山中湖ならではの企画です。

星空観測

エクシブ伊豆

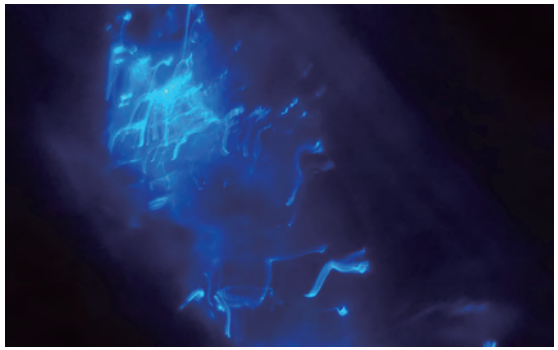
ホテルの近くにある眺めの良い公園で星空観測をするイベントです。大空に広がる360°の夜空に、専門ガイドと共に季節の星座を学ぶことができます。

©Mamoru.Watanabe

ジオパークウォーキング

エクシブ伊豆　※ジオパーク：地球を学び、丸ごと楽しむことができる公園

ユネスコ世界ジオパークに認定されている「伊豆半島ジオパーク」を専門ガイドとウォーキングしながら地球の成り立ちを学ぶイベントです。山頂から見る絶景とともに、ジオ（地球・大地）の魅力を発見することができます。



海ほたる観察体験

グランドエクシブ鳥羽

ホテルの目の前に広がる海に生息する海ほたるの神秘的な光を観察する、海のリゾートならではの体験です。海ほたるの生態についても理解を深められます。

ほたる観賞会

グランドエクシブ初島クラブ

初夏の夜、ホテル内の庭園の一角にある小川にて、幻想的に舞うほたるをご覧いただくイベントです。事前にほたるの生態や、ほたるを観賞する際に気を付けることなども学ぶことで、観賞を一層お楽しみいただけます。

富士山の植樹活動

私たちは、リゾートトラスト労働組合の活動で富士山の保全活動を行うNPO法人「富士山ナショナル・トラスト」と共に富士山の植樹活動を行っています。

世界文化遺産に登録されている富士山の一部は、宝永噴火後、森林地帯が砂礫（されき）地帯になったことで雪崩が発生しやすくなり、その範囲が広がってきています。雪崩を防ぐためにも、富士山に自生するさまざまな種類の苗木を育てて植樹しています。

2019年は5月15日に活動。当日は植樹について話を聞いたうえで、苗木を選定し、土を準備して、富士山5合目で苗木の植樹を行いました。私たちの活動は5年目を迎え、参加者は過去最多になりました。参加者からは「富士山植樹の現状や必要性を学べて、やりがいを感じる」「実際に砂の斜面を歩くと、植樹で雪崩を防げるということが実感できる」と好評であり、今後も社会貢献として活動を続けていきます。

レインフォレスト・アライアンス認証農園産のコーヒー豆

コーヒーを楽しんでいただきながら持続可能な社会の実現に向けてお客様と共に取り組んでいます

当社では、東京ベイコート倶楽部やエクシブ淡路島、リゾーピア別府、ローズルーム名古屋でレインフォレスト・アライアンス認証農園産のコーヒー豆を使用しています。このコーヒー豆は、国際非営利団体であるレインフォレスト・アライアンスが推進する基準に従い、自然環境に配慮して適正な労働環境で作られているものです。お客様にコーヒーを召し上がっていただくことで、熱帯雨林の自然保護や労働者の支援につながっています。

レインフォレスト・アライアンス認証の農園・森林で作られた商品や、それらの産品を用いて作られた商品には認証マークが付与されています。

伝統技法により美しく修繕

金継ぎ

金継ぎとは、日本で約500年続く陶器の修復技法です。エクシブ琵琶湖では、陶器の欠けた部分を金でつなぐ金継ぎの技法を用いて、美しい陶器に歴史を刻みながら長く大切に使っています。エクシブ琵琶湖の新入社員研修では金継ぎを教育しており、“モノを大切にする心”も育んでいます。

［ 金継ぎ工程 ］

①欠けた箇所を埋める
②紙やすりで削る
③漆を塗る
④金粉をつける
⑤金を磨いて完成

脱プラスチックへの一歩

紙ストローへの変更

当社では、深刻な海洋汚染等への環境保全の取り組みの1つとして、2019年2月より全てのホテル、レストランで使用している年間約100万本のプラスチック製ストローを順次紙ストローに変更しております。

リゾートトラストグループの地域環境への取り組み

地域・社会への貢献

Community

社会を良くする企業グループをめざして

私たちは全国に拠点を持ち、それぞれの地域・社会と共に生きています。

各地域には、たくさんの魅力・特性があり、

その恩恵を受けて私たちの事業は成り立っているとも言えます。

私たちもまた、その地域に貢献し、地域の方々のお役に立てる企業グループ、

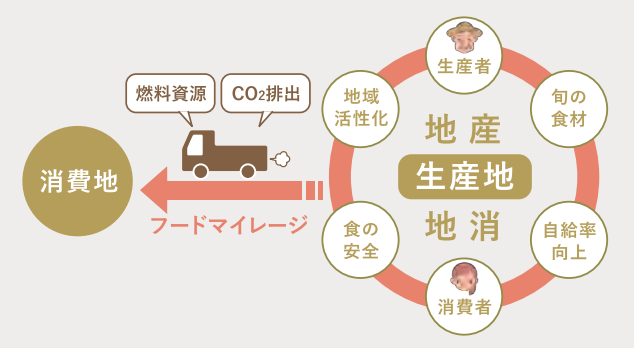
社会全体に貢献できる企業グルー プであり続けることを目指し、

活動を続けています。

新鮮な食材を提供できる地産地消は、日本料理の理想の形

エクシブ那須白河
日本料理「花木鳥」料理長
土井　伸良

上：花木鳥で扱っている福島産「阿武隈川メイプルサーモン」、新潟産のどぐろ、めばる、三陸産あいなめ、穴子、うに、北海道産きんき、毛がに。
下：福島産「白河高原清流豚」。パプリカ、丸茄子、ししとう、ズッキーニなどの野菜も、福島県の農家で生産されたものを使用。



地元の新鮮で美味しい食材を活用
地域の活性化にもつながる「地産地消」

当社では、各ホテルの地域で生産された食材を活用する「地産地消」に力を入れています。地元の食材を使うことはフードマイレージの削減や燃料資源の節約、二酸化炭素の排出抑制につながります。そして何より、安心で安全な旬の食材をお客様に召し上がっていただくことができる、お客様・生産者・料理人の皆が笑顔になることができる活動です。今回は、エクシブ那須白河「花木鳥」で実施している地産地消活動の一部をご紹介します。

各地の市場から直接仕入れることで より新鮮な魚介をお客様へ

8 働きがいも経済成長も

12 つくる責任 つかう責任

私がエクシブ那須白河の料理長に就任したのは、2015年。東北地方唯一のエクシブらしい料理をご提供するために、最初に着手したのが食材の見直しでした。

それまで当ホテルでは、食材の多くを築地から仕入れていました。築地は言わずと知れた東京の台所、全国から良質な食材が集まる場所です。しかし、こちらは福島県。運んでくる間にどうしても鮮度が落ちてしまうのです。

そこでまず三陸に足を運び、三陸の市場から直接仕入れるパイプを作りました。三陸から築地へ、そこから那須白河へと運ばれていた食材を直接仕入れることで、輸送距離を短くし、より新鮮な魚介を入荷できるようになりました。

その後、北海道や青森、新潟にも新たな仕入れ先を開拓。現在では、定期的に「プレミアム美食会」を開催し、各地域の新鮮な食材を使った料理をお客様にご提供しています。

座右の銘である「日々新」の思いと料理のイラストが描かれた献立。後々また料理を思い出していただけるようにと、土井が考案した。

福島県の2つのブランド食材と地元農家の野菜を採用

もともと福島県内から仕入れていた食材についても、改めて吟味しました。そこで初めて知ったのが「阿武隈川メイプルサーモン」と「白河高原清流豚」の2つのブランド食材。どちらも本当に美味しく、お客様からの評価も高いため、カジュアル料理「那須」コースの食材として引き続き採用することにしました。主に阿武隈川メイプルサーモンはお造りで、白河高原清流豚はしゃぶしゃぶで召し上がっていただきます。

野菜はあぶくま高原に位置する玉川村の生産物直売所「こぶしの里」から仕入れています。地元農家で育てられ朝採りされた旬の野菜は、みずみずしく苦味も少ないと好評です。生産者の顔が見える食材ですので、安心してお客様にご提供することができます。

日本料理は素材が勝負。美味しい食材を新鮮な状態で調理するためには、地産地消が理想です。地元の食材に彩られた那須白河だけの味わいをお客様にお楽しみいただき、料理を気に入られたお客様がまたここを訪れ、ご友人に紹介してくださる。そんなふうに地元の活性化に役立てればと考えています。

生産者から聞いた情報をメニュー開発やサービスに活用

自ら仕入れ先に赴くことで、各地の市場や地元の生産者の方から生の声を聞くことができます。それぞれの食材がどのように獲られ作られているのかをはじめ、皆さんが努力されていることや、食材へのこだわりなどを伺うことがメニュー作りのヒントになり、エネルギーになっています。お客様にご挨拶する際に、よりリアルに料理をご説明できることにもつながります。

今後はさらに秋田県や富山県、石川県にもパイプを作る予定です。「日々新」を座右の銘に、今後も新たな地域食材探しとメニュー開発にチャレンジしていきます。

「花木鳥」で提供している「本鮪・縞鯵・阿武隈川メイプルサーモンの造り」と「白河高原清流豚しゃぶしゃぶ」。

福島県を代表するブランド生産品「阿武隈川メイプルサーモン」と「白河高原清流豚」の生産者の方々に話を伺いました。

生産者インタビュー① 株式会社 林養魚場様

約26年かけて養殖方法を確立「阿武隈川メイプルサーモン」

阿武隈川メイプルサーモンの養魚場で語り合う石田氏と料理長 土井。食材に対するお互いの思いを語り合う。

当社は、1935年に創業以来、80年以上にわたってサケマス魚類の養殖を行ってきた、国内でも最古参の養魚場です。国内最大規模の約5万㎡の養殖施設を持ち、卵から新魚まで一貫したサイクルで、年間約400トン、約500万匹のサケマス魚類を出荷しています。

エクシブ那須白河でお使いいただいている「阿武隈川メイプルサーモン」は、カナダのB.C.州カムループス地方原産のニジマスをもとに開発した当養魚場オリジナルのブランド養殖魚。品種改良による親魚の開発から、採卵・孵化・飼育の技術、エサの開発など、研究と試行錯誤を繰り返し、約26年かけて現在の養殖方法を確立しました。天然のニジマスのような適度な弾力のある食感と余計な油っぽさや臭みのない、それでいてしっかりとうま味が感じられるのが特徴です。

自然の渓流のような厳しい環境が引き締まった肉質を生み出します

当養魚場では、阿武隈川の水を引いた約20mの円形の池で魚を育てています。一般的な養魚場のように温度を一定にせず水流の強い円形池で育てることにより、自然の渓流で育った魚のような引き締まった体になります。

エサも一般的なエサの約4倍の油分を含んだ特別なものを使用しています。こういったエサを与えたら通常は脂肪が付き過ぎて病気になってしまいますが、厳しい環境で育つ当養魚場の魚には、このエサがちょうど良いのです。

成長するごとに選別して別の円形池に、3歳になったらストレスの少ない素掘の池に移し、4歳になってようやく出荷できます。一般的な養殖サーモンと比べると、育成期間は約3倍。その中でも「阿武隈川メイプルサーモン」と呼ぶことができるのは、3kg以上に育ったものだけです。大事に育てた魚をより美味しく召し上がっていただくために、活け締めの方法にもこだわっています。

エクシブ那須白河は、当社から車で10分ほどですので、出荷ぎりぎりに水揚げして、できるかぎり新鮮な状態でお届けしています。一番美味しい状態でお客様に召し上がっていただけるのは、生産者にとっては本当にありがたいことです。これからもお客様に喜んでいただける魚を提供できるよう、さらなる研究を続けていきたいと思います。

子どもの頃、初めての渓流釣りで見たマスの美しさに感動し、漁業関係の仕事に就くことを決意。水産大学を経て林養魚場に入社。阿武隈川メイプルサーモンの開発の中心メンバーとなり、現在もさらなる養殖技術の改良に取り組んでいる。

株式会社 林養魚場
養魚部 部長
石田 信哉 氏

生産者インタビュー② 有限会社 肉の秋元本店様

先代の反対を押し切って実現した ブランド豚「白河高原清流豚」

白河高原清流豚の豚舎の前にて。秋元幸一氏、秋元雅幸氏と土井は、普段からよく会って話をする間柄。

当店はもともと精肉店ですが、先代社長である父が養豚農場を造って、豚肉の卸業を始めました。しかし、当時は子豚を仕入れては育てて売るというやり方で、品質はバラバラ。昨日の肉と今日の肉で味が定まらないような状態で、父の元で働きながら、何とかしなくてはいけないと考えていました。

そこで、育てるだけでなく自家繁殖による生産をしたいと父に提案したのが1996年。費用はかかるしリスクも大きいと即却下されましたが、諦めず親子喧嘩をしながら交配の研究を続け、少しずつ肉質を安定させていきました。1999年に「白河高原清流豚」と名付け、テスト販売を経て、2003年にようやく完成。2005年から正式にブランド豚としての販売を始めました。

白河高原清流豚は、ヨークシャー、バークシャー、デュロックによる三元交配豚です。飼料は抗生物質や合成抗菌剤などは使わず全て無添加。飲み水にはミネラル豊富な那須白河の地下天然水を使用しています。静かで清潔な環境で、通常より1カ月ほど長い約200日間、ストレスなく伸び伸びと育てることで、肉本来のうま味がある赤身と、爽やかな甘味のある脂、柔らかく臭みの少ない肉質になります。

豚は繊細な動物で、大きな音や急な接触を嫌がります。そのため、掃除をする時は細心の注意を払って、接する時は優しく話しかけたり、体を撫でたり、たっぷりと愛情を注ぐようにしています。そのせいかどの豚もとても人懐っこく、採血検査に来た保健所の職員さんにも、こんなに穏やかな豚舎は珍しいと驚かれました。

白河市へぜひ遊びに来てください

3種類の豚から子が生まれ、育ち、美味しい肉ができる、その物語を皆様にお届けするのが私たちの仕事の半分、もう半分は白河市の宣伝をすることです。東京からわずか1時間半、自然のエネルギーが満ち溢れた白河を、もっとたくさんの方に知っていただきたいのです。

当店の活動を参考に6次産業化を目指す農家も増えており、少しは地元に貢献できているのかなとも思いますが、決して満足はしていません。清流豚を守っていくための遺伝子の凍結保存や、「豚福」のような新たな特産品の開発など、これからも遊び心のある挑戦を続けていきます。

先代社長である父から精肉店と養豚農場を引き継ぎながら、白河高原清流豚を開発。また大福の中に豚の角煮を入れた「豚福」など、ユニークな新商品開発でも注目を集めている。幼稚園や小学校向けの食育活動など、地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

有限会社 肉の秋元本店
代表取締役
秋元 幸一 氏(左)
専務取締役
秋元 雅幸 氏(右)

次世代を担う子どもたちに「夢」と「感動」を与える食育

2019年3月、ラグーナベイコート倶楽部が
愛知県蒲郡市に誕生しました。施設開業の決定より、
食に力を入れている当社だからこそできる取り組みとして
周辺地域へ食育の授業を実施することに。
2016年から蒲郡市の小学校にて毎年2～3校ずつ実施し、
2017年までは当社の総料理長である内山が
「食の大切さ・夢を持つ大切さ」を伝えてきました。
2018年からはラグーナベイコート倶楽部の
メインダイニング『MAROCE』の料理長・野口が活動を続けています。

リゾートトラストだからできる食育

専務取締役 総料理長　内山 敏彦

「食」は栄養摂取のためだけでなく、家族や友人との大切な時間を過ごし、出会いや特別な時を演出するために欠かせないものです。また、食は生活を豊かにするために無くてはならないものであり、重要なコミュニケーションの場を作る大切な要素でもあります。食育の授業では、子どもたちに地元の食材を使った料理を通じて「驚き」と「感動」を演出し、食への興味へとつなげています。

料理長として着任すると同時に食育活動の思いを引き継ぐ

内山総料理長が実施する食育の授業は単純な調理実習ではなく、自らの経験をふまえて子どもたちへ「食の大切さ」、「夢を持つ大切さ」を伝えています。そんな食育に対する思いに賛同し、2018年から引き継ぎました。

修行に行ったイタリアで、地元の小学校へ日本食を教えたこともあり、「食が人生においてどれだけ大切なことなのか」を伝える良い機会だと感じています。

ラグーナベイコート倶楽部
ホテル&スパリゾート
メインダイニング MAROCE料理長
野口　将義

身近な食材を使ったイタリア料理で食への興味を持ってほしい

蒲郡市の食育活動を2018年に引き継いでから、すでに4校へ授業を行いました。食育の授業はほとんどが小学6年生の卒業前イベントとして位置づけられており、お楽しみの授業となっています。

食育の授業では、蒲郡市に隣接する三河湾がイタリアのナポリ湾と形状や気候が似ていることから、地元のスーパーで手に入る身近な食材を使ってナポリ料理を作ります。今年は三河湾で採れる魚介類を使用して「アクア・パッツァ」という魚介類の蒸し焼きを作りました。「地元の食材でこんな料理が作れるのか」と食への興味を持ってもらうことも狙いのひとつです。子どもたちは表情豊かで笑顔が輝いており、授業をするこちらが圧倒されるほど。純粋な反応や、終了後にもらう子どもたちからのメッセージから、毎回パワーをいただいています。

小学校の調理室や、人数が多い時は
体育館にて授業を行っています。

子どもたちが自分の将来や世界に目を向けるきっかけに

私は大学時代に進路で悩み、同級生より1年遅い23歳で「料理人になる」と決めて、イタリアへ渡ったのは29歳のときです。大学卒業後は一般企業に勤める風潮が強かった中、時間をかけて自分の道を決めたことに後悔はありません。日本で最初に働いたリストランテ、10年間のイタリア生活や当社に入るまで、さまざまな良い出会いが私を支えてくれて今があります。その時間に全く無駄はありませんでした。そのため、食育の授業では「自分の将来を今からゆっくり考えてみては」と伝えています。

また、ぜひ1度は日本の外へ出てほしいということも話しています。私自身、イタリアでの10年間は、日本とは異なる仕事へのスタンスや時間の使い方など、気づきや学びがたくさんありました。世界からイタリア料理を学びに集まる同志たちは、文化も言語も宗教も皆さまざま。寝食も共にすることで、生活習慣の違いや“世界の多様さ”を目の当たりにした日々でした。

今、自分が置かれている環境とは異なる文化との出会いは、自分の視野を大きく広げてくれるはずです。未来ある小学生の子どもたちにも、世界を見ることで視野を広げ、自分の人生を自分で選択できるようになってほしい。私の経験を話すことが、そのきっかけになればうれしいことです。

各ホテルでの食育活動

その他のホテルでも、
食育の授業を行っています。

エクシブ白浜&アネックス

地元の神島高校の高校生に食育授業を実施（今回で6回目）。生活文化系列「フードデザイン」の授業で、洋食の長門料理長や矢倉パティシエによる洋菓子作りを通して、プロの技を実演しました。

エクシブ蓼科

地元の蓼科保養学園の生徒に食育活動を実施（今回で3回目）。今回は洋風料理の体験ということで、保養学園で作られた凍み大根を使った料理を一緒に作りました。

グランドエクシブ浜名湖

地元の村櫛小学校の小学生と保護者の方に食育活動を実施。イタリアン料理長をはじめ、料理人達と一緒に調理をし、食事の時にはテーブルマナーの講習を交えるなど、「食」や「ホテルの仕事」に興味を持っていただける機会を提供しました。

この医療研究の成果が
誰かの未来を幸せにすると信じて

［ メディカル事業での社会貢献 ］

検診データを研究に反映
医療発展の可能性を追求

メディカル事業のはじまり

リゾートトラストグループでは「会員様の人生を豊かにする」ことをミッションとして掲げており、お客様からも健康に関するサービスを求める声が多く上がったことから、メディカル事業が始まりました。1994年、まだ「がん検診」という概念が浸透していなかった時代に始めた画期的な検診プログラムが、ハイメディックでのPETによる画像診断を取り入れた検診です。

現在は、東京大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院と産学連携事業や共同研究にも取り組むほか、多くの国内大学病院や地域有力病院との診療連携、プライマリ・ケアやエイジングケアといったサービスを拡充してまいりました。今後も当事業を通して、皆様のより良い人生を実現させるべく、研究、精進を重ね、「生涯メディカルサポート」をご提供してまいります。

世界に認められた「山中湖方式」

お客様から「リゾートホテルでリラックスしながら高度な検診を受けたい」という声が集まり、エクシブ山中湖内に検診施設を設け、ハイメディックの検診を開始しました。一般的な人間ドック以上に検診の医学的有用性の検証を続け、当時の日本では数えるほどしかなかったPET検査装置を初めて検診に導入。従来の人間ドックやがん検診での画像診断は臓器ごとの撮影でしたが、PET検査の導入により少ない負担で一度に全身を調べられるようになりました。CTやMRI、血液検査などにPET検査を組み合わせることで、一般のがん検診では発見されにくかった早期がんの検出に成果をあげ、日本のPET検診の指針作りにおいても重要な役割を果たしました。

また、それらの実績が世界的に評価されPETを用いた検診システムは「山中湖方式」と国際的に称されるまでになりました。

大学との共同研究により国家的な課題「健康寿命の延伸」に貢献

リゾートトラストグループのメディカル事業は、大学との産学連携事業を通して、検査精度の向上や、疾患の発症メカニズムの解明、早期診断法の開発など、健康寿命の延伸という国家的課題の解決に向けた社会的意義の大きい研究に取り組んでいます。

◆東大病院22世紀医療センター寄付講座に寄与

グランドハイメディック倶楽部「ハイメディック・東大病院コース」の検診で会員様から得られた検診データは、東京大学医学部附属病院の22世紀医療センター コンピュータ画像診断学/予防医学講座での研究に役立てられています。この講座では、AI（人工知能）を応用した先端医療技術開発の研究に取り組んでおり、主に「脳MRAによる脳動脈瘤の自動検出」「肺CTによる肺結節の自動検出」「全身CTによる内臓脂肪体積の自動計測」など、自動診断に関する様々な研究を行っています。

◆京都大学との共同研究

グランドハイメディック倶楽部「ハイメディック京大病院コース」の検診で得られた検診データは、京都大学医学部附属病院 先制医療・生活習慣病研究センターで長期間集積・活用して研究を進め、生活習慣病の発症病理の解明等の研究に役立てられます。検診データを継続して得られるという会員制ならではの当事業の特性を生かし、病気を発症した方の数値をさかのぼり、傾向を分析するなど、研究を予防医療に生かすという取り組みが行われています。

チャリティー賞味会
うちやま料理ものがたり
～子どもたちの笑顔が輝くように～

2008年より、当社の専務取締役 総料理長 内山敏彦は「子どもの未来は地球の未来…」をテーマとするチャリティー賞味会「うちやま料理ものがたり」を手掛けてきました。2019年3月で開催80回を迎え、今もなお多くのゲストを魅了し続けています。

チャリティー賞味会は グランシェフ内山の新たな挑戦

「うちやま料理ものがたり」は、内山が還暦を迎えてから始めた新たな挑戦です。毎回、カトリック名古屋教区の司教座聖堂（カテドラル）である布池教会のブライダル施設「聖ヨゼフ館」にて開催しており、料理とワイン、音楽を味わう極上のひとときをご提供しています。

この賞味会はシェフ育成の場と捉え、内山の指揮のもとで当社の若手シェフたちが参加するほか、ベイコート倶楽部やエクシブ施設の料理長ともコラボレーション。「一夜限りのスペシャルディナー&感動のエンターテインメント」を展開しており、料理や内山自身も賞味会を通して進化し続けています。

子どもたちの笑顔が輝くように イベント収益の一部を寄付

チャリティー賞味会「うちやま料理ものがたり」では、イベント収益の一部を、社会福祉法人カトリック名古屋教区報恩会を通じて岐阜県中津川の「麦の穂乳幼児ホームかがやき」にお渡ししています。2018年で11回目となりました。毎年クリスマスの日に施設を訪問し、内山自らがサンタクロースに扮して、1年間のチャリティー募金と大きな特製クリスマスケーキを子どもたちへのクリスマスプレゼントとして届けています。

キッチンの主役より楽しい料理のエンターテイナーになりたい

当社に入社した当時から変わらぬ情熱を胸に、料理人生50年を越えた今も走り続けています。皆様方とご一緒できることは、最上の喜びであり私の生きがいとなっております。やはり私の使命は、料理が美味しいというのは当たり前のこと「来て良かった」「楽しかったよ」とおっしゃっていただける特別なひとときをお過ごしいただくこと、真のおもてなしを皆様方にお届けしていくことです。

プロフィール

1947年愛知県生まれ。「帝国ホテル」を経て、1968年21歳から約11年間ヨーロッパへ。本場フランス料理界で経験を積み、1979年にリゾートトラスト株式会社に入社。自社のフランス料理レストランの基礎を築き、当社の発展へとつなげる。2013年にフランス政府より『農事功労章オフィシエ』を受勲。その他多くの称号を叙任。

専務取締役 総料理長
内山 敏彦

会員様とともに復興支援活動を続けてまいります

がんばろう日本
Never give up and Smile Again Japan

震災孤児遺児の大きな夢と未来に向けて

当社は、2011年3月11日の東日本大震災発生直後から、会員様と共に復興支援に精力的に取り組んできました。2011年に生まれた子どもたちが高校を卒業する2030年までの期間、支援を継続的に取り組んでいる、愛知ボランティアセンターを通して応援金の寄付を続けています。これからも彼らが健やかに成長し、大きな夢に向かって羽ばたいていけるように、皆様のご理解とご協力のもと、応援活動を継続していきます。

東日本大震災孤児遺児への寄付のご報告
（2019年6月現在）

〈2011年度〉	3,369,719円	〈2016年度〉	32,891,391円
〈2012年度〉	52,459,803円	〈2017年度〉	30,266,129円
〈2013年度〉	30,650,923円	〈2018年度〉	27,318,626円
〈2014年度〉	31,659,395円	〈2019年度〉	18,105,227円
〈2015年度〉	33,158,952円		
		寄付総額	259,880,165円

変わらぬご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

◆リゾートトラストの震災孤児遺児応援活動の歩み

2011年
グループ施設に募金箱を設置、福島県西白河郡西郷村に寄付。
グループゴルフ場から日本赤十字社、新聞社などの義援金受付先に寄付。
福島県へ義援金寄付と生活必需品の物品提供。
「甦る東北美食フェア」開催。
第1回東北物産展キャラバンを13施設で開催、売り上げの一部を寄付。
リゾートクリスマスの宿泊プランなどの売り上げの一部を寄付。

2012年
第2回東北物産展キャラバンを18施設に拡大して開催。
リゾートクリスマスの宿泊プランなどの売り上げの一部を寄付。

2013年
チャリティイベントキャラバンなどを開催、イベント参加費の一部を寄付。
第3回東北物産展キャラバンを開催、売り上げの一部を寄付。
40周年イベント「究極の美食」の参加費の一部を寄付。
リゾートクリスマスの宿泊プランなどの売り上げの一部を寄付。

2014年
チャリティイベントキャラバンなどを開催、イベント参加費の一部を寄付。
第4回東北物産展キャラバンを開催、売り上げの一部を寄付。
リゾートクリスマスの宿泊プランなどの売り上げの一部を寄付。

2015年
チャリティイベントキャラバンなどを開催、イベント参加費の一部を寄付。
第5回東北物産展キャラバンを開催、売り上げの一部を寄付。
リゾートクリスマスの宿泊プランなどの売り上げの一部を寄付。

2016年
チャリティイベントキャラバンなどを開催、イベント参加費の一部を寄付。
第6回東北物産展キャラバンを開催、売り上げの一部を寄付。
リゾートクリスマスの宿泊プランなどの売り上げの一部を寄付。

2017年
チャリティイベントキャラバンなどを開催、イベント参加費の一部を寄付。
第7回東北物産展キャラバンを開催、売り上げの一部を寄付。
リゾートクリスマスの宿泊プランなどの売り上げの一部を寄付。

2018年
チャリティイベントキャラバンなどを開催、イベント参加費の一部を寄付。
第8回東北物産展キャラバンを開催。

※上記に加え、毎年1月～3月の全てのホテルの売上の一部を寄付金として支援。

各ホテルで追悼式を実施

東日本大震災の発生以降、3月11日には、各ホテルで「東日本大震災追悼式」を実施しています。今年も多くの皆様にご参加いただき、厚く御礼申し上げますとともに、今後も応援活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2018年追悼式／グランドエクシブ那須白河

東北物産展キャラバンの実施

エクシブ・リゾーピア・サンメンバーズ・トラスティにて、「つづける、つながる、東北復興支援」として、8年目を迎える2018年も、東北地方の特産品をお届けする東北物産展キャラバンを開催、売上の一部をチャリティーとして寄付しました。物産展を通しても、東北支援や震災孤児遺児応援を行っています。

2018年度実施ホテル
グランドエクシブ那須白河 ザ・ロッジ
グランドエクシブ鳴門 ザ・ロッジ
リゾーピア箱根
リゾーピア熱海
ホテルトラスティ名古屋 栄
ホテルトラスティ心斎橋

お客様の気持ちに寄り添う災害支援「お見舞い隊」を実施

2011年の東日本大震災や2016年の熊本地震の後、当社では「災害対策室」を設置して、被災地にお住まいの全ての会員様を直接訪問する「お見舞い隊」の活動を行いました。お一人おひとりのお顔を見てお話を伺い、お見舞い品を手渡しする活動です。2018年度は西日本豪雨と北海道胆振東部地震の後に活動しており、北海道の会員様へはお手紙によるご連絡をいたしました。

平成30年7月豪雨被災地への義援金寄付のご報告

ホテルイベントや東北物産展、Xmasプラン、ポストカードなどの売上、募金箱より

寄付総額／946,118円
寄 付 先／日本赤十字社
平成30年7月豪雨災害義援金、
NPO法人カタリバ

北海道胆振東部地震被災地への義援金寄付のご報告

募金箱より

寄付総額／499,945円
寄 付 先／日本赤十字社
平成30年北海道胆振東部地震
災害義援金

リゾート地を清掃する「リゾピカ」・街を清掃する「まちピカ」

私たちは周辺地域・景観を美しく維持し、お客様や地域の方々に気持ち良く
過ごしていただけるよう、清掃活動を行っています。

グランドエクシブ鳴門

エクシブ有馬離宮

横浜支社

グランドエクシブ浜名湖

エクシブ箱根離宮

リゾーピア箱根

エクシブ琵琶湖

グランドエクシブ軽井沢

エクシブ淡路島

私たちがお世話になっている地域・社会に貢献するためさまざまな活動を行っています

グランドエクシブ浜名湖　職場体験

地元の新居高校より職場体験として、生徒の受け入れを実施。

グランドエクシブ軽井沢

軽井沢で行われた「国際カーリング選手権大会」のお手伝いにボランティア参加。

エクシブ琵琶湖

地元の米原中学校の生徒にマナー講習会を実施。

グランドエクシブ軽井沢

「サンスポ軽井沢リゾートマラソン」の給水ボランティアに参加。

エクシブ山中湖

山中湖村主催で行われた「山中湖ロードレース」の給水ボランティアに参加。

グランドエクシブ那須白河

地元の西郷支援学校より校外学習として、生徒の受け入れを実施。ベッドメイキングや、レストランでのサービス体験も行った。

ハイメディック山中湖　職場体験

地元の山中湖中学校より職場体験として、生徒の受け入れを実施。実際に、放射線技師やコンシェルジュの制服を着用し、機器を使った体験も行った。

美しいビーチリゾートにある ホテルとしてできること

［ザ・カハラ・ホテル＆リゾート］

THE KAHALA
HOTEL & RESORT
Honolulu, Hawaii

グリーンビジネスアワード受賞

ザ・カハラ・ホテル＆リゾートは、2015年～2018年の4年連続で
ハワイ州主催の『グリーンビジネスアワード』を受賞しました。
ホテル内の空調や照明に使用するエネルギーの省力化、水の使用量や廃棄物の削減など、
日常的にさまざまな環境活動を実施している点が評価されました。
この美しい光景をいつまでも守るため、私たちは今後も地球環境・地域環境に貢献していきます。

その土地の食材を使うことで地球環境を考える

ザ・カハラ・ホテル&リゾートのレストランで提供している野菜は、環境に配慮した害虫駆除を行っている「ナロ ファーム」などから仕入れており、可能な限り地元食材を仕入れるように取り組んでおります。地元の新鮮な野菜を提供できるだけでなく、食材輸送にかかるエネルギー「フードマイレージ」の軽減による燃料資源の節約や二酸化炭素の排出抑制にもつながっています。

リゾート地の美しさを守るためスタッフがホテル周辺を清掃

ホテルにお越しいただくお客様や地域の方々に、いつも気持ち良く過ごしていただけるよう、私たちは清掃活動を行っています。私たちは美しいリゾート地をいつまでも大切にしていきます。

再利用しやすい素材を積極的に使用

運営する全レストランは、国際環境NGOのSurfrider Foundationが主催する「Ocean Friendly Restaurant」に参入しています。団体の考えに賛同し、プラスチックストローを廃止し紙ストローに、持ち帰り用の料理を入れるビニール袋を布製に変更しました。

お客様とともに地球温暖化防止に努める

宿泊されるお客様に向けて「カハラ・リネン・プログラム」を実施しており、リネン類（シーツ・枕カバー・布団カバー）の交換を毎日ではなく週3回（月曜日・水曜日・金曜日）行っています。このプログラムは任意であり、毎日リネン類の交換をご希望の方は、指定のカードをベッド上に置くことで、意思表示していただいています。

リゾートトラストグループの職場環境への取り組み

働きやすい職場づくり

Workplace

多様な人財が活躍できる企業グループとなるために

私たちは、多様な人財が活躍し、

誰もがいきいきと働くことができる職場の実現を目指し、

さまざまな取り組みを行っています。

5 ジェンダー平等を実現しよう

8 働きがいも経済成長も

10 人や国の不平等をなくそう

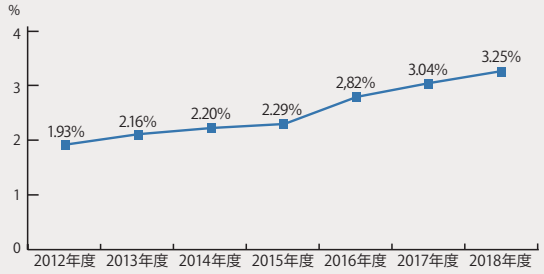
ダイバーシティの推進により いろいろな“わたし”が輝ける職場へ

互いに支え合いながら働く職場に

障がい者雇用の促進と事務支援センターの設立

「事務支援センター」は、障がい者雇用促進のために名古屋・東京・横浜・大阪の事業所で立ち上がりました。最大の特色は、雇用を目的とする専門的な組織を、特例子会社として「作業所」のように作るのではなく、同じ事務所の中で障がい者と健常者が一緒に働いている点です。作業に応じた配置の工夫や、作業マニュアルの整備などきめ細かなサポート体制を構築し、外部支援機関とも連携を強化しました。同時に社内の各部署の事務作業などを見直し、積極的に各センターへ業務を移管。これにより、事務支援センターでは現在80種類以上もの業務を各部署から委託され、センター内は充実感に満ちています。また、業務を効率化できたことで、他部署はさらに自分たちの専門業務へ集中することができ、相互的な協力関係が生まれました。2006年から、一つひとつ試行錯誤しながら手探りでスタートしたこの支援センターは、私たちの思いの結晶です。

障がい者雇用率
〈 2012年度～2018年度 〉



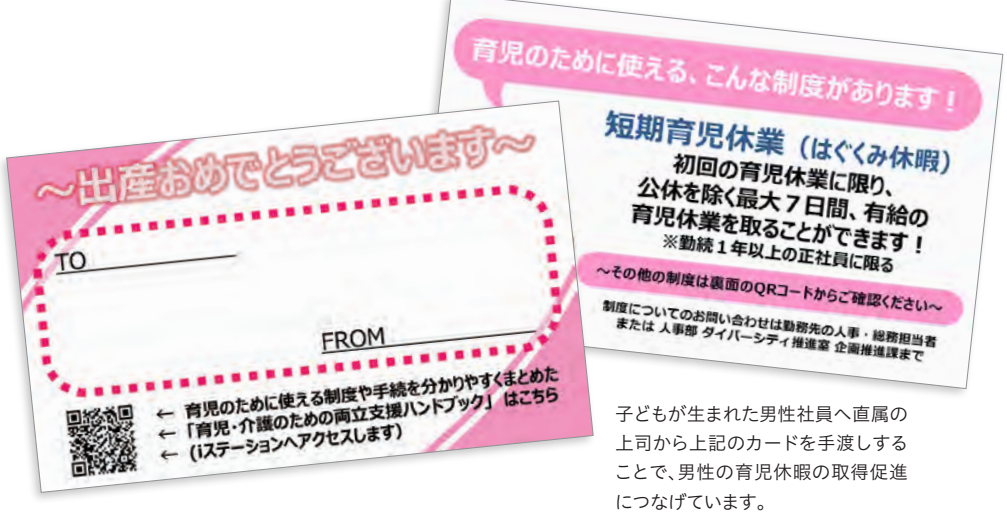
ちなみに 平成30年の1,000人以上の民間企業の実雇用率は… 2.25%
※厚生労働省「平成30年 障害者雇用状況の集計結果」より

同僚の存在が励みにも成長にもなり仕事へのやりがいや自信も高まっています

入社当初は短時間勤務でも体力的にきついと感じることがありましたが、周りのサポートやハンデを背負った同じ部署の仲間の存在に助けられ、5年目の今では時間を増やして働けるようになりました。書類の押印やホテルで使用するおしぼりの検品作業など、仕事を覚えてできるようになるとやりがいを感じます。新人の教育を担うこともあり、成長につながっていると思います。

名古屋事務支援センター
服部 匡志

出産後の大切な“家族時間”を社員みんなが持てるように



子どもが生まれた男性社員へ直属の上司から上記のカードを手渡しすることで、男性の育児休暇の取得促進につなげています。

男性社員も育児参加しやすいよう はぐくみ休暇の取得を推進

当社はワークライフバランスの推進と、社員それぞれが希望するライフスタイルの実現を支援しており、男性社員の育児休業取得も促進しています。2017年より短期育児休業制度（通称：はぐくみ休暇）を導入し、育児休業取得のしやすさを向上させました。子どもが生まれた男性社員へ、直属の上司から短期育児休業制度の内容を記載した既定の「出産おめでとうカード」を手渡しする、会員制本部ではポスターによる取得促進をするなど、男性社員も休めるような環境づくりを進めています。

「ベビーシッター制度」による育児両立支援

- 小学校３年生以下の子を持つ社員が対象
- 入会金、年会費を会社が負担する
- 年１回利用料金を会社が負担（上限8時間）
- 正社員以外も利用可能
- 子が感染症（インフルエンザ等）の場合も利用可能

育児休業取得率（2018年度実績）

女性	男性
100%	37.0%

ちなみに 平成29年度一般企業の平均は？

女性の育児休業の割合は …… 83.2%

男性の育児休業の割合は …… 5.14%

※厚生労働省「平成29年度雇用均等基本調査（確報）」より

家族の時間に専念することができました

第2子の出産時、7日間のはぐくみ休暇を取得させてもらいました。

始めは、妻の実家近辺で出産を考えておりましたが、出産日が近くなり、勤務地である名古屋で出産することとなりました。帝王切開での出産は決まっており、出産後は入院をしなくてはいけなく、互いの両親も遠方で共働きのため、入院中の間の長女の子育てに悩んでおりました。

そんな時に、昨年この制度を利用した同僚から教えてもらい、上司に相談しました。上司、同僚のご協力が大きく、仕事を気にせず、家族との時間に専念する事ができました。

子育ての大変さ、日頃の妻への感謝が再認識でき、家族の絆（愛）が深まりました。

中部S&M
第二グループ一課 チーフ
毛利 峻

一人ひとりの働き方をサポートしながら当たり前に仕事と介護を両立できる環境に

介護についての各種制度をまとめて介護との両立支援を周知

当社は社員のライフスタイルに合わせた働き方ができるように各種制度を用意しており、介護と仕事の両立をサポートしています。

介護が必要になった場合の社内制度をまとめた「介護のための両立支援ブック」で社員に周知する他、40歳以上または管理職の社員には介護の基礎知識をまとめた「介護対応ハンドブック」を配布し、仕事と介護の両立が必要な社員をサポートしています。

両立支援ワークショップの開催
介護・育児と仕事を両立する社員、およびその上司を主な対象として知識向上と相互理解の機会として通年で全社開催しています。

介護環境を整えられるよう準備期間として介護休業制度を設置

介護を理由に勤務が難しい場合、社内制度を活用することで継続勤務できる仕組みを整えています。介護休業のほか、短時間勤務や労働時間を制限する制度を用意し、さまざまな働き方を選択できるようにしています。

介護短時間勤務制度

要介護状態にある家族を介護する社員は、取得回数に上限なく所定時間を縮めることができる

私傷病介護休暇制度

私傷病の療養と介護を目的に連続7日以上欠勤する場合、失効有休を積み立てられる（最大40日間）

介護費用補助（ポイントくん）

介護サービス利用費用介護用品購入・レンタル費用を会社が補助

介護を自分だけの負担や義務にせず制度や会社の力を借りることで乗り越えられました

母が末期がんで余命数カ月と宣告され、本人の意向で在宅医療を選択。部長職に付き、数多くの業務を抱えていた中で介護生活を開始しました。

絶え間ない抗がん剤治療に加えて脳転移による認知症状が出始め、次第に日常生活はままならない状態に。仕事を続けられるか迷っていた時、介護休業制度があると会社から提案され取得することに決めました。休業中も上司とメールのやりとりをする、グループ内のスタッフやドクターも病院の情報をくれるなど親身になってもらえたのでとても救われました。

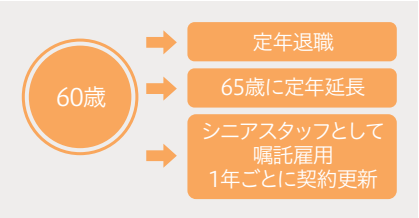
現在はグループ各施設に勤務する看護師のマネジメントを行う中で、情報共有や意見交換、介護職員も交えた看取り研修などを実施しています。これから介護休業はより身近になるでしょう。自分の経験を広め、同僚が介護に直面したら制度について伝えたり、一声かけて気遣ってあげたいと思います。

トラストガーデン株式会社
第一兼第二事業部 看護部 部長
鈴木 佳世子

シニアスタッフの活躍

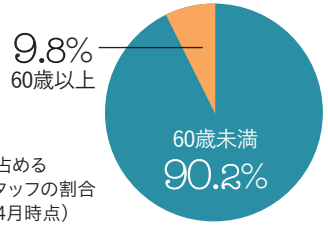
■定年後も活躍できる制度を用意

定年後も継続勤務を希望し、会社が定める一定の基準を満たす社員については、定年年齢を延長する制度や、シニアスタッフとして嘱託雇用で働き続けられる制度を設けています。



■シニアスタッフの活躍状況

2019年4月時点でシニアスタッフの割合は全従業員の9.8%となり、今後さらに割合を増やし、シニアスタッフの持つ技術やノウハウを事業の発展に活用していきます。



従業員に占める
シニアスタッフの割合
（2019年4月時点）

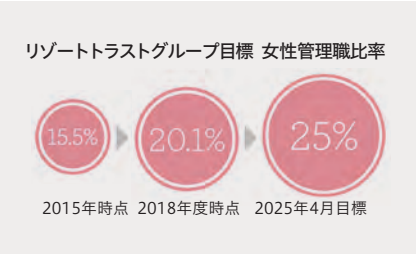
お客様の心をつかむ温かい接客を心掛けています

52歳で入社、現在74歳です。サービス業は未経験で今でも日々勉強の連続ですが、接客を通して多くを学べることが楽しく、成長の場を提供してくれる会社には感謝しています。

エクシブ琵琶湖 ロビーサービス
佐野 宗也

多様な社員の活躍

2013年5月に「女性活躍推進プロジェクト」を発足。その後「ダイバーシティ推進室」へと進化し現在は「ＣＳＲ推進室」となって、全従業員が活躍できる職場づくりを推進しています。また各本部においても独自に企画し、ヒアリングやアンケート、研修の実施などを積極的に行っています。



■女性社員のキャリア形成支援

キャリア促進に向け、数値目標を設定、現在は管理職比率のみを目標としていますが、今後はさらに内容を充実させ、実力ある女性を積極的に役員にも登用していく予定です。

- 通信教育に「女性キャリア」メニューを追加
- 女性社員向け研修「Shining Forum」（会員制本部）を実施
- 女性幹部候補研修（ホテルレストラン本部〈当時〉）を実施
- 現職管理職への研修を実施

キャリアもプライベートも両立できる環境に

3歳の息子の育児の傍ら、リゾーピア別府の副支配人も務めています。サービス業での両立は、勤務時間の調整、日曜日や長期休暇の預け先など課題がたくさんですが、いずれは、私自身の経験を生かしてもっと両立しやすい仕組みづくりを提案できるぐらいになりたいです。

リゾーピア別府 副支配人
谷口 由香

外部評価の紹介

平成25年度最優秀賞「厚生労働大臣賞」を受賞

積極的な職域拡大や業務マニュアルの整備、障がい者のモチベーション向上と維持、精神障がい者の平均勤続年数が5年超という職場定着の実現などが特に評価点として挙げられています。

平成26年度ダイバーシティ経営企業100選（経済産業省）に選出

多様な人材を生かし、その能力を最大限発揮できる機会を提供することでイノベーションを生み出し、価値創造につなげている企業を表彰するものです。当社は障がい者雇用に対するさまざまな取り組みに対する高い評価によって選出されました。

DIVERSITY MANAGEMENT SELECTION 100 2015

障害者雇用優良事業所「機構理事長努力賞」を受賞

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が主催する、「障害者雇用優良事業所」の表彰において東京事務支援センターが受賞。

平成29年度東京都障害者雇用優良取組企業「障害者雇用エクセレントカンパニー賞」を受賞

障がい者の能力開発や処遇改善の優良な取り組みを行う企業として、当社の「障がい者が職場でいきいきと活躍することができる環境整備のための特色ある取り組み」が評価されました。

次世代認定マーク「くるみん」を継続取得

仕事とライフイベントが両立しやすい環境づくりへの取り組みや両立支援制度の拡充、社内イントラサイトでの育児や介護に関する情報周知、さらに男性の育児参加促進への積極的な施策が認められ、今回の新基準での認定につながりました。

2019年認定 くるみん 子育てサポートしています

平成30年度愛知県ファミリー・フレンドリー企業表彰「イクメン・イクボス企業賞」受賞

管理部門・事業部門が一体となり、独自制度である「短期育児休業制度（はぐくみ休暇）」の取得実績向上や「出産おめでとうカード」など、男性従業員の育児参加に向けたさまざまな施策を展開していることが評価されました。

リゾートトラストグループ

健康経営

健康経営宣言

当社は、リゾートトラストグループの経営理念である『エクセレント・ホスピタリティ・グループ』の真の実現のために、心身ともに健康で自らの人生を輝かせる人材が欠かせないと考えます。そのために社員の健康維持・増進に向け、安全で快適な職場環境の形成、社員の生活習慣の改善、メンタルヘルスケアの充実などの施策を会社と社員、そしてその家族が一体となって実行・推進し、イキイキと活躍できる職場環境と、家庭生活の充実に取り組むことを宣言いたします。さらには、当社グループのハイセンス・ハイクオリティな事業活動を通じ、当社に関わる全ての人々の人生を謳歌するしなやかな生き方に貢献していきます。

リゾートトラスト健康保険組合の設立

2018年4月1日にリゾートトラスト健康保険組合を設立しました。

組合との連携を通じ、従業員の生活習慣病などの疾病を予防するための効果の高い取り組みにつなげる考えです。また、従業員を支える家族の健康も欠かせないものであるという認識のもと、被扶養者の健康診断の補助拡大や受診の促進にも取り組んでいます。

従業員食堂でスマートミールを提供

Smart Meal
スマートミール

従業員の食生活を継続的に支援することを目的に、各ホテルで働く従業員が利用する従業員食堂では、メニューのひとつにスマートミールセットを提供しています。スマートミールセットとは、1食で必要な栄養がバランス良くとれる食事で、生活習慣病予防・健康増進を目的とした食事メニューです。24カ所の従業員食堂で提供し、食生活の面からも従業員の健康をサポートしています。

第2回「健康な食事・食環境（スマートミール）」認証 3つ星を取得

これらの取り組みの結果、健康な食事・食環境コンソーシアム（※1）が実施する第2回「健康な食事・食環境（スマートミール）」認証制度（※2）の給食部門において、最上位の「3つ星」認証を取得しました。

※1「健康な食事・食環境」コンソーシアムとは、特定非営利活動法人 日本栄養改善学会、日本給食経営管理学会、特定非営利活動法人 日本高血圧学会、他、計11団体からなるコンソーシアムです。

※2 スマートミール認証制度とは、「健康な食事（スマートミール）」を継続的に、健康的な環境で提供する店舗や事業所を認証し、企業が進める健康経営を食生活の面から応援する制度のことです。

従業員食堂で健康イベント

従業員の健康意識向上、また生活習慣の見直しのきっかけづくりとして、「血管年齢 測定イベント」を実施しました。イベントでは、管理栄養士により測定器を用いて血管の健康度を測定し、血管老化状態のフィードバック、食事や生活習慣をアドバイスし、自身の健康状態と向き合う機会となりました。（2018年度1,681人が参加）

禁煙プログラム導入

私たちは、従業員の禁煙を推奨し、喫煙率の減少に取り組んでいます。2019年5月より、リゾートトラスト健康保険組合・リゾートトラストグループのクリニックとの連携により、導入した禁煙アプリから、ウェブ対話にて直接、リゾートトラストグループのクリニックの医師につながり、遠隔地にいながら禁煙診療を受けられる制度を導入しました。これにより今後のさらなる喫煙率の減少を目指します。

社員喫煙率と目標

健康ポイント制度

従業員の健康意識向上と、健康への取り組み推進を目的に、「健康ポイント制度」を導入しています。スマートフォンアプリを使い、歩数や、健康診断受診、スマートミールセットの喫食などに応じてポイントが付与される制度です。

「健康経営優良法人（ホワイト500）」3年連続で認定

当社は、経済産業省と日本健康会議が共同で認定する「健康経営優良法人2019 ホワイト500」に選定されました。3年連続での認定となります。この制度は、地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度です。

2019 健康経営優良法人 Health and productivity ホワイト500

環境マネジメントシステム（ISO14001）

ISO14001は、企業活動が環境に与える影響の管理を適正に行い、継続的に環境保全に取り組むための要求事項を定めた国際規格です。当社では、現在35事業所においてこの認証を取得しています。

※「グランディ軽井沢ゴルフクラブ」を除く（2019年6月時点）

東京ベイコート倶楽部
ホテル&スパリゾート

グランドエクシブ那須白河

エクシブ山中湖
エクシブ山中湖サンクチュアリ・ヴィラ

グランドエクシブ軽井沢※

エクシブ蓼科

エクシブ箱根離宮

グランドエクシブ初島クラブ

エクシブ伊豆

グランドエクシブ浜名湖

グランドエクシブ鳥羽

エクシブ琵琶湖

エクシブ京都 八瀬離宮

エクシブ白浜&アネックス

エクシブ有馬離宮

エクシブ淡路島

グランドエクシブ鳴門

リゾーピア箱根

リゾーピア熱海

リゾーピア久美浜

リゾーピア別府

サンメンバーズひるがの

サンメンバーズ京都嵯峨

サンメンバーズ神戸

ホテルサンフレックス鹿児島

ホテルトラスティ東京ベイサイド

ホテルトラスティ 金沢 香林坊

ホテルトラスティ名古屋 栄

ホテルトラスティ名古屋

ホテルトラスティ心斎橋

ホテルトラスティ大阪 阿倍野

ホテルトラスティ神戸 旧居留地

名古屋本社

東京本社

横浜支社

大阪支社

Green
Hospitality

リゾートトラストグループの環境ロゴマーク

1枚の葉を人が包み込むデザインに
人と自然が共生するという思いや姿勢を込めています。

リゾートトラスト株式会社
〒460-8490 名古屋市中区東桜2-18-31
TEL.052-933-6000（大代）
www.resorttrust.co.jp

当社の取り組みは
ホームページでご覧いただけます。

Green Hospitality

Waterless Printing, Naturally.

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C013697

PRINTED WITH SOY INK

このレポートを
印刷する際に排出された
温室効果ガス（Co^2）を
100%カーボン
オフセット※しています。

※カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動において排出してしまう温室効果ガスを、他の場所における温室効果ガスの削減活動を支援することにより埋め合わせを行うことです。